

「戦場に輝くベガ～約束の星を見上げて」 感想ノート

4月8日

とっても良い作品だったので、図らずも涙してしまいました。あの素晴らしいコーラスとともに、いまの体験者たちの明るい表情や家族、戦時中の若き日の写真など・・・が次々と映し出されていくラストシーンが秀逸でした。60年という時を隔てて存在している戦争と平和という現実についてじわりと考えさせられました。今後とも良い作品を多くの子どもたち(もちろん大人も)に発表して下さい。

Nさん(甲府在住)

4月8日

すばらしい作品だったよ。

星っていうのはねえ、やっぱりきれいだなと思って安心してみるものだよ。

Sさん(甲府在住)

4月9日

「戦場に輝くベガ - 約束の星を見上げて」、すばらしいですね!

メッセージ 「星が武器としてではなく、希望の光を人々にもたらすために輝ける日が来ることを祈っています・・・」

この作品を見る人は、当然戦争体験者も未体験者も受け止め方はさまざまでしょうけど、作者の願いは見た人の心に一石を投じたと思います。

人の心に支配欲・整備欲がある限り、戦争と平和とは永遠のテーマですね。この地球という星には、原子爆弾を落とされたのに、それを落とした国に戦争援助している国がある。その国に生きる僕は、どんな形で「小さなノウ」を、意思表示できるだろうか・と自問自答してみるこの頃です。

Iさん(甲府在住)

4月9日

まだ見てない方は、一見の価値がありますよ、とまず言うておきましょう。涙がにじみました。

しかし、戦争反対を訴えることは難しいです。特に日本人に限ってアンケートをとれば、「戦争反対」という人がほとんどでしょう。それは間違いないと思います。しかし、自分の信じる「神」のためならば、死もいとわれない、という人も世界にはいます。

いろんな大義名分の前に、戦争を肯定してしまう人。世界には、いろんな時間軸や思考軸があふれています。日本国内だけの条件で、戦争は今のところ起こさないでしょうが、それを世界にどう伝えるか、を考えたいと思います。自信を持っていえること。それは、いまの日本の考えが、世界に浸透すれば、戦争はなくなること。そんな日本の姿であればいいな、と。

「戦争」について、というより、「戦争反対の仕方」について、いろいろ考えたことがあります。それにまた火をつけてくれた番組、それが今回のプラネの番組でした。ありがとうございました。

Sさん(甲府在住)

4月9日

「戦場に輝くベガ - 約束の星を見上げて」

とてもよかったです。ありがとうございました。まずは身近な人に観てもらいたいです。

また今回の取材資料とインタビューをまとめたものも見てみたい(残してほしい)し、その方々の生の声、映像で聞きたいなあと思いました。

Kさん(御坂在住)

4月9日 (中攻の会掲示板)

4/8～9/3 の間、甲府市の[山梨県立科学館でプラネタリウム番組「戦場に輝くベガ」](#)が上映されています。物語は「銀河」の偵察員を主人公に航空天測表を計算する学徒動員の女学生の心の交流を「天文航法」を主軸に描かれます。映像作品で偵察員や天文航法が取り上げられるのは大変珍しい(世界初?)のではないのでしょうか？。

## 「戦場に輝くベガ～約束の星を見上げて」 感想ノート

番組はプラネタリウムの全天スクリーンに上映され、偵察席から眺める満天の星も見所です。上映の後、構成・脚本を担当された跡部さん、高橋さんにお話を伺ったところ実際に天文航法の経験をされたベテランの皆さんや航空天測表を作っていた方々に取材を行い制作されたとの事でした。こうしたプラネタリウム番組を科学館が独自で企画制作しているとは初めて知ったのですが「銀河」や「天文航法」などプラネタリウムならではの着眼点や構成におどろかされます。番組は通常のプラネタリウムの解説の後上映されます。ひさしぶりに星空を眺めに行くと言うのはいかがでしょうか？。

科学館入り口では航法や天測表の計算に使われた気泡六分儀や手回し式計算機が展示されています。

4月9日

「戦場に輝くベガ 約束の星を見上げて」、いろいろご苦労されたと思いますが新しい試みとして評価に値するものだと思います。

昨日は思いつくまま、勝手なことを申し上げてすみませんでした。

気にかかっていたことをひとつ、ふたつ、整理してお伝えさせていただきます。

最初に、私はこの物語の主人公・和夫が14期飛行科専修予備学生ではないかと申しました。14期であれば、19年の11月に実戦配備についてサイパンに行くということは不可能だと申しました。

なぜ14期の予備学生と判断したかと申しますと、最初に和夫が久子と別れの言葉を交わすのが18年10月とあったからです。

13期の予備学生は18年9月13日に土浦、三重の両航空隊に集合することを命じられています。従って、10月に「娑婆」で友人と別れを交わすということではできない筈なので、これは14期の予備学生の話だと判断した次第です。飛行科予備学生の適正検査を行い、合格者が航空隊に入隊したのは10月4日ですが、それもそのまま土浦、三重に居残って、入隊しています。外出は許されなかったとのこと（これは実際の13期の方に確認しました）。

また当時の状況を説明する部分で、18年10月の神宮外苑での出陣学徒壮行会の写真とともに、学徒が出征することになった云々の説明があったと思いますが、ご存知のとおり、13期の予備学生は文科系学生の徴兵猶予が停止される前に志願して入隊した学生であり、彼らは出陣学徒壮行会には出ていません。従って語義に正確であれば、彼らは学徒兵ではありませんし、現に13期の方々のなかには自分たちが学徒兵と言われることを嫌う方もいらっしゃいます。

雨の神宮外苑の行進姿が残っている学生は飛行予備学生であれば14期以降となります。

これは蛇足ですがこの部分は、多くの人々が誤解していますが、13期と14期の予備学生は、入隊時期としてはわずかな違いですが、一方が繰上げ卒業による志願入隊であり、他方は徴兵による召集であったという大きな違いがあります。これは戦後も続く、13期と14期の人たちの精神的異和の大きな要素です。

和夫は13期の予備学生であるとの設定は、そういった意味で少し誤解を招く部分があったと思います。

また仮に和夫が13期の予備学生、しかも少数である前期の偵察であるとしても、5月に実施部隊に行った和夫が11月（実際の戦史では12月ですが）の時点で、木更津から硫黄島を經由してサイパン爆撃をするという、相当困難な任務の航法を担当する偵察員兼機長として攻撃に参加できるか、というの若干の疑問が残ります。丸山さんのような甲飛三期という大ベテランでも唯一、天測を行ったというサイパン攻撃に、実施部隊に行って半年足らずの予備学生が参加できたかは、実際の資料にあたってみないと確実なことは言えませんが、いささか無理があるように思われます。

ただこれについては、実際の12月24日26日の攻撃では13期の偵察員が2名戦死しており、ありえないとは言えないのですが。（ただしこの二人は陸軍の重爆に航法士として乗り込んで戦死しています）。

あともうひとつ気になったのですが、チラシにも出て

「戦場に輝くベガ～約束の星を見上げて」 感想ノート

いました「航空天測表の計算」という写真は本当に当時のものですか？少なくとも女子学生の動員時の写真ではないと思いますが。というのも女性がパーマをかけているというのは当時考えられませんし、動員学徒であれば白の綿シャツにもんぺ姿だと思います。私の母も松江高女に在学中、呉の海軍工廠で勤労奉仕させられていましたので、そのころのことはよく聞かされました。それとも水路部はそれくらい捌けていたのでしょうか？

以上、思いつくままつらつらと書きましたが、このことは決して作品の評価そのものを損なうようなものではないと思います。あくまでうるさい歴史マニアの小言だと聞き流していただければ幸いです。

Kさん(東京在住)

4月13日

本日拝見した「戦場に輝くベガ～約束の星を見上げて」は大変興味深かったです。25分という短い上映時間であったにもかかわらず、内容が凝縮されていて心に直に突き刺さりました。「星が武器としてではなく、希望の光を人々にもたらすために・・・」という言葉は、単刀直入に「戦争反対」と高唱するよりも説得力がありました。いままで社会科学の目から戦争と人間を考えてきました。が、天文をはじめとする自然科学の視点で今日戦争と人間を考えてみて、人間の愚かさとはかなさを痛感しました。壮大な星空から見ると、戦争は実に小さな出来事です。その小さな出来事のために、一人ひとりの幸せが奪われていく。一人ひとりがその事実気づいたとき、世界情勢は少し好転するのではないのでしょうか(これはあまりにも楽観的な見方でしょうか)。

エンディングロールを見たときに、浅川先生はじめ他に知っている方がいて驚きました。石川安雄さんは戦跡ネットの会員で、戦争と平和展で何度かお世話になりました。山岡正夫さん(多分浅川先生のご紹介ではないでしょうか)は甲府市上帯那の方で、戦時中の貴重な資料等をたくさんお持ちです。以前浅川先生と一緒に山岡さんのお宅を訪問した際、写真や書籍、

戦時中の物品等たくさん見せていただきました。今回取り上げられた写真で、見覚えのあるものが何枚もありました。戦況を解説したシ

ーンでは浅川先生の授業を思い出すなど、私にとっては新しさだけでなく懐かしさも含んだ内容でした。

Iさん(甲府在住)

4月15日 (お手紙にて 番組協力者の方より)

満開のサクラの下”戦場に”耀くベガのご完成を心よりお祝い申し上げます。オープニング前のご多忙の中から何のお役にも立ちませんでした私に迄ご丁寧なご案内とご招待券をお送りくださりまして大変恐縮いたし心から御礼申し上げます。プリントの中に仮島美以子様のお名前を拝見いたしまして、驚くとともにホッといたしております。前便で海軍水路部で最後までご一緒だった方が現在も浦和区にお住まいかもしれませんと記しご紹介申し上げたいと思っておりました方が仮島様でご住所は麗風会の名簿で存知上げておりました。高橋様にご紹介してもよろしいかお尋ねしてみようと思いつながら夫の見守りや介助等雑用に追われている間に月日が流れてしまい気掛かりながら失礼しておりました。

飯島様とは親しくして頂いておりましたが、私が結婚後地方生活が多くクラス会にも不参加で六十年間もご無沙汰でございます。この機会にその内ご連絡差し上げてみようと考えております。“戦場に耀くベガ”を拝見させて頂きたいのは山々でございますが都心にも出掛けられない現状では非常に残念でございますが失礼させて頂く事になると思います。然し身内に科学関係の者がおりますし将来科学館のような場所で働きたいと夢を持ち現在大学で物理を学んでいる孫娘もおりますので貴重なご招待券は有効に使わせて頂けると思います。ありがとうございました。この度ご参集なさった方々のご体験談は盛り上がったことと思います。私はこのようなお話を申し上げたかもしれないと思う前便の続きを少し。

水路部といえば計算尺を 連想する程で天測計算をお手伝したお陰で子供の頃から興味のあった星の名や宇宙に一層関心を抱くようになりました。朝礼の

時海軍下士官の号令で海軍独特の海軍体操を行なうのがほんの息抜きの楽しみでございました。偶然夫が海軍技術尉官でしたので海軍体操は共通の話題でございました。水路部では空襲の度に二階から外階段で防空壕に退避或いは高射砲で打ち落とされた飛行機がきりもみしながら東京湾へ落下していくのを目のあたりにした事もございました。歯科で治療を受ける事も出来ました。築地に通っていた頃は仕事が終わってから日比谷公会堂や上野奏楽堂へ好きな音楽を聴きに行くよう余裕が未だございました。でも演奏する学生さんは国防服中には出征直前なのか国旗を襷掛けにしていらっしゃる方もおられました。聴く方もゲートルを巻き非常袋を肩に掛け空襲か何かあるかもわからない中で息詰まる思いで聴いておりました。あの時学生さんや動員学徒の天測計算表で飛行された方々は無事帰国されたかしらと長い事気掛かりでございました。非常袋の中には手の年に入るような小さい手帳に好きな歌を三十曲ほど書き込み持ち歩いて降りましたが現在も思い出の品として大事に保存しております。

水路部が解散後誰方にもお会いする事がなく六十年が過ぎ去りました。計算尺での天測計算や校正は好きでしたので当時は真面目に作業をしておりましたが六十年後に科学館の番組に取り上げて頂けるような天測の仕事であった事又天文の学芸員方の豊富なお仕事の内容等をこの度教えていただきご連絡くださいました高橋様に深く感謝申し上げます。高等科の卒業アルバムもなく乏しい青春は時代でございましたが辛抱強さは人一倍培われたようで目下なるべくご迷惑をおかけしないようにと時々夫と、「海軍体験よーいはじめ」と元気付けの声を掛け老々介護に専念の日々を過ごしております。ご協力できませんでしたお詫びに遅ればせながら取り留めの無い水路部の思い出話を長々おしゃべりいたし失礼いたしました。どうぞお読み捨ててくださいませ。大きなお仕事のお疲れにくれぐれもお気をつけられ一層のご活躍をお祈りいたします。科学館のご発展と星が平和な光として美しく耀きつづけることを心から念じております。 Kさん(東京在住)

4月13日(お手紙にて 取材協力して下さった方より)

先日は御館プラネタリウム新番組「戦場に耀くベガ～約束の星を見上げて」のオープニング投影会にお招きいただき誠にありがとうございました。

そのストーリーがプラネタリウムの天井画面にどのように投影展開されていくのか、興味津々わくわくしながら、風光明媚で桜花に包まれた超近代的な御館を訪れました。高橋様の明瞭で良く理解できる素晴らしいナレーションに感動いたしました。また、星座映像の他に地元合唱団映像によるテーマに合う七夕の歌唱と各投影場面に適う詩歌と美しいメロディー、並びに複合的映像を加える投影手法をはじめて観賞し、その素晴らしさに感動しました。

昨年戦後60周年の節目に、市民参加の基でプラネタリウム番組を戦時中日本軍が航空作戦の手段として天体(星)を利用したと云う史実をテーマとして選び立派に完成させた事は大変意義あることと思います。そのテーマ番組を見に訪れる多くの観客は、展示した天測機械や諸資料を使って戦時中、日本軍の航空機(海軍機)が大海原の上空を天体観測しながら目的地に飛行する「天文航法」という技法に、きっと興味と関心をよせる事と思います。

この天文航法について当時の海軍水路部職員の田口玄一様は、戦争末期に任務先の岩手県水沢でB-29が墜落した時拾った米軍製「航空天測表」の精度を日本製と比較し調べた結果、日本の天測表の高精度を立証されています。また未来の科学、技術を引き継ぐ子供たちに対してもこのテーマは人の航海、航空と星との関わり方を良く理解でき、星や宇宙に好奇心を寄せる絶好なプラネタリウム番組であると思います。多くの観客者が御館を訪れ科学心を抱く事を願っています。

先日御館から頂いた「スペースシアター2006年vo 1. 32」を拝読して今回のテーマ番組作成に当時の関係者が大勢参加された事を知り驚きました。ひとえにスタッフ方々による取材等の労苦に思いを馳せる次第です。

Tさん

4月22日(お手紙にて)

突然の手紙をお許し下さい

先週の土曜日(二十二日)「戦場に輝くベガ」を拝見いたしました F です。学校にパンフレットが届いたばかりでタイミング良く知人の教師と三人で拝見しました。

何といっても「星が武器になった」という言葉が衝撃的でした。正直なところ、先の戦争において飛行機が飛ぶために天文航法(天測)という方法を取り、そのための天測表というものを作成する為の学徒動員があったという事実をはじめて知りました。よく考えてみれば現代のようにG.P.S等のない時代、星を目印にということには至極納得できます。そして、こうしたことをはじめ私たちが知らない、いや知らされなかったことがきつとまだ沢山あるだろうと思われてきます。当事者にしてみれば語りたくない事実もあるのだろうと…。

そうした上で、今回のこの番組はとても意義深い事だと思いました。新聞紙上で話されていたように今伝えなければきつと知らないままで終わってしまう事実なのだと思います。

映像に人の顔が出ない影絵のような手法と和男さんと久子さんの二人の手紙のやり取りによる構成手法がとても心に残ります。想像力でみる事ができますね。最後に流れる身延ジュニアコーラスの方々の歌もとてもよかったです。楽譜が欲しいくらいです。CD 化の予定はありませんか？

番組の終わりに映し出される兵隊さん方の写真と現代の人々の写真をみて胸が詰りました。涙が溢れますね。戦場で亡くなった若者、本土爆撃や沖縄の地上戦・原爆で失われた命。その人たちにもきつと家族とほほ笑んで写真が撮られる幸せな未来があったはずと思うとやり切れません。本当に無謀な戦いをしたものだと思います。「戦争に勝ち負けもない失うものばかりです」という和男さんの言葉が強く印象に残りました。「星に祈りを…」「星に願いを…」の言葉があるように、人々にとって星は夢と希望そして祈りの対象であり続けてほしいと思います。番組が戦争という重いテーマではあるけれど、戦場で亡くなっていた人々が、最後に思ったことは愛する人のこと。その人

の為に戦ったのだと確信できた番組でした。美しい星を美しいと眺められること、大好きな人愛する人と星を眺めることができる平和な世の中。そんな平凡でも大切な幸せをこれからも守り続けなければと痛感しました。この番組を是非多くの人々に見ていただきたいですね。学校でも平和教育の教材として見てほしいと思いました。今年の七夕の夜、沢山の人の思いがきつと星の輝きとなって戻って来る事を心に刻みながら星空を眺めたいと思います。心に残る番組をありがとうございました。これからも沢山の思いを伝える番組作り、お仕事をなさってください。心から応援しています。そして、ご活躍を祈ります。

4月26日(お手紙にて 取材協力して下さった方より)

お元気でご活躍のことを思います。さて、先日は貴重な番組資料を沢山に、またCDを早速に御送付いただき感謝にたえません。早速拝聴しましたが、極めて感動的で涙を禁じえませんでした。家内に気付かれないよう涙を拭きました。贅優の方も本格派と思われ、真に迫った抑揚でご立派だと思いました。

映像はありませんが、音声だけで私には状況が良く判り、この制作が成功していることをしりました。あの当時天測によって機位を知る技術があったことを伝え残すこと以外に戦争の悲劇を知らせていることを知りました。そうして多くの戦友を亡くしたことを想起し自分が生きていることを申し訳なく思いました。CD制作や送付料等が数が増えれば経費も高くなりますのでその費用を支払い度思いますので教えてください。私も現在の平和な時代にベガを見上げたく、晴れた夏空が一日も早く来ることを願っています。色々ありがとうございました。

4月30日(会場にて)

今回のお話は山梨の方が関わっているのですか？すばらしいお話で、感激して涙がでました。

「戦場に輝くベガ～約束の星を見上げて」 感想ノート

4月25日

今回のプラネタリウム番組は、見終わった前と後で、世界の風景が違って見える力を持つものでした！

新緑ゆれる夕映えの愛宕山、舞う鳶、見下ろす人の町並みの愛しいほど輝き。

人間という存在がどうしようもない逆説を背負った中で生きている切なさ悲しみを実はみんな携えてるんですよね。絶望の裏側の悲しみ、悲しみの裏側の叫びたいほどの「願い」がある。その願いに届く作品っていうのかしら。誰の胸にもある星への想いと、それから命への慈しみと、に「呼応」しあう力を持った作品だと思いますよ。

Kさん(甲府市在住)

4月30日

プラネタリウム番組「戦場に輝くベガ～約束の星を見上げて～」には、本当に感動しました。星空に輝くひとつの星に多くの人々の青春と戦争の悲惨さと平和への想いがこめられていました。

映画やテレビでは実写やCGなどでリアルに迫力ある映像で表現されますが、動画でなく静止画と音楽とナレーションでの表現は、プラネタリウムという空間の中での宇宙の星とのコラボレーションが見事に構成されていました。宇宙における地球と人間の存在を考えさせられました。

Nさん(東京在住)

4月30日

「戦場に輝くベガ」をプラネタリウム内という別世界で鑑賞することができ、まさに感動の一語につきました。

Nさん(東京在住)

5月3日(取材協力者の方より お手紙にて)

先日お忙しい中、たくさんの資料をお送り頂きましてありがとうございました。

熊谷さまより封書が届きました。私も驚き嬉しいやらなつかしいやら、直、返事いたしました、ご無沙汰の事情も判り、自分の電話番号を記してお出し致しまし

たら、又、間もなく電話がございまして、色々話し合い感激・感動の時を過ごすことができました。何しろ60年間の間の事はさておき、あの様なむごいおろかな戦争は決していけませんねとこれを風化させないよう努力せねばと電話を切りました。

60年前のあの頃は、私たちが若うございましたので、星の計算の星の数(名)もたくさん覚えたのになんと、頭も老化してか、忘れてしまひまして、私、一人でため息ついてしまいました

その後、私事、ある所で一寸した事を致して居りまして、時間も早く済みましたので、余りの時間、若い中年以上のお母様の集いですので、先日の黒羽美恵子様との(出会い)ですから、なんとなく自然に戦争の事に話が進んでしまい、いろいろの出来事を夢中でお話にしてしまいましたら、皆シーンとしてお聞き下さりびっくりするやら、何やら、私も驚いてしまいました。“よいお話を伺う事ができました”と、世の中の事も無感心でなく、学びましたら、変な方向へゆかない様皆様も努力に向ってくだされば何よりと思いました。本当に感動の何週間か過ぎました。

5、60歳台の方々でも只ひたすら、戦後再建は一生懸命でその間もなかったでしょうけれど日本の歴史をもっと勉強せねばと強く感じました。

先日いろいろお知らせの積りで、下書きをかき置きましたのに、その間雑用が入り込んで判らなくなってしまう。要領を得ないかと存じます

まだまだその時分の事等いくらでもございますが、ひどい目にあわれた方々は皆、絶対多くを語られることはないようですが、だまっててもこれもいけないのではと思います。(まだまだお書きしたいこともあります)が、目も悪いものですからこの辺でご免下さいませ)

政治家さん方も恐らく、私たちおりお若い方が多いと存じておりますしまだまだお勉強が足りないのではないかと感じたりいたします。大変劣な事ばかり尋ねたと思いますが、先日の資料お届け頂きましたお返事とさせて頂きます。いろいろ有難うございました。

失礼ですがございましたらお許し下さいらん乱筆、乱文で本当に済みません。御自愛下さい。

Iさん(埼玉在住)

「戦場に輝くベガ～約束の星を見上げて」 感想ノート

5月4日

実話のように引き締まり、洗練された内容でした。見終わった後に、静かな自問と父を・・・母を、祖母やそれに連なる人々を思わずにはられませんでした。

現在も世界のあちこちに、繰り返される悲惨な歴史の事実……。そして、歴史なくしては語れない充満してきた、人々の怨念や恩讐の怒気……。一度始まってしまったら、止めることのできない人間の愚かなエネルギーの矛先。

だからこそ、こうして哀しみを忘れることなく振り返り、「戦争」は誰のことも幸福にはしえない事実を、危うい「今」伝え続ける必要がありますね。戦争を経験せずに、幸福を謳歌してきた私たち世代の責任なのでしょう。

貴重な写真もリアルなイメージを直接的に伝えてくれました。語ってくださった方々のポートレートも、戦後60年の重みと緊張が感じ取れるモノクロと、平和な現代の緩みある表情とが対照的で涙がこぼれました。

音楽や劇画も一つひとつ心に残りました。この脚本を書くに当たってどれだけ多くの方々に出会い、どれだけ多くの話を取り込んだのか……。なかなか重い作業でもあったことでしょう。多くのことを受け止めながら、一筋の光芯が一直線に作品を貫いている・・・そんな潔さも感じました。

科学はいつの時代も「戦争」に利用されて発展してきました。その科学を真に愛する、「科学人」でありたい制作者の思いが伝わってくる力作でした。

この創作に大きな敬意を抱いています。ご苦労様。そして、ありがとうございました。

Mさん(東京在住)

5月10日

鳥肌がたってまだおさまらない。いやあ、ほんとうにいいものを見せてもらった。

自分たちがつくってる番組を深く反省した。

いろいろなことを想像させる。思わせる。自分に投影できる・・・映像を使いすぎてないことが、よけいにそうさせているのだと思う。

自分自身も両親のことを思ったり、それは人それぞれ

だろう。

ほんとによくつくったと思う。すごいことだ。

終わったあと、できれば3分ぐらいは暗いままで、何もアナウンスせずに、静かにして考えさせてくれるとますますよい。

某放送局の制作関係の方(山梨在住)

とても素晴らしい番組でした。

取材や攻勢、音楽まで非常にいい作りで感動しました。

作り手の熱意を感じる作品です。

26歳 男性

とても素敵な番組でした。「戦場に輝くベガ～約束の星を見上げて」を観た感想です。

星空を見上げる人の思いは本当に様々であると感じました。

そして、その思いは体験やその過程によって異なり、今回は、私が体験したことのない戦時中の「ある人」の思いに触れたように思います。物語すべてが真実でなくとも、亡き祖父母やその世代の人々が語ることのなかった物語を聞けたように思います。「戦争」という言葉の持つ意味さえ忘れそうになっているこの豊かな日本に住む私達にとっての一つの問いかけのように思えます。

最後に流れたコーラスによって物語が過去の出来事に留らず、今を生きる私達へと現在、そして未来へと、つながっていくように表現されていたのでしょうか？

戦時中の言葉に出来なかった人々の思いが伝わってくるような作品でした。本当にありがとうございます。次回の作品を心待ちにしております。

p.s.今日はあいにくの雨ですが、明日の夜、晴れ手入ればベガを見上げようと思います。

29歳 女性

ありがとうございました。

46歳 男性

「戦場に輝くベガ～約束の星を見上げて」 感想ノート

私は、現在高校で日本史や現代社会を教えている者です。「戦場に輝くベガ」の評判は制作協力者の石川先生や浅川先生からうかがっていたので早く観たいと思っておりましたが、GW最後の日曜日によりやく実現する事が出来ました。本当に素晴らしい感動的な内容で、高橋さんはじめ制作スタッフの皆様方の熱い思いと願いがよく伝わってきました。明日からまた学校が始まりますが、さっそく生徒達に県立科学館へ行くように、強く勧めたいと思っています。友人同士で誘い合って、できれば好きな彼氏(彼女)と一緒に星をみてきなさい。そして戦争の時代のことに思いを馳せ平和の時代を長く続けていく事の大切さを、心底感じとってほしいと訴えるつもりです。私もまた、妻と娘と一緒にもう一度「ベガ」にあいにまた来たいと思います。本日はありがとうございました。

46 歳 男性

GWが終わろうとする今日、科学館で素晴らしい時間を過ごさせていただき、心が洗われる重いでした。前座のプラネタリウムで「この星たちは全ての人に平等に・・・」とありました。地球という家族が争うことなく穏やかに生活していく事をお祈りします。

「戦場に輝くベガ」を見させて頂きました。感想を書きます。

タイトルがかっこいい。

戦場がいかに悲しいことを一番大切な恋人との別れを通して語ってくれている。

バックに流れるピアノの高音が場面の緊張感をもりたてている。

ラストのコーラスがやさしかった。

有難うございました。

51 歳 男性

対極のものを結ぶもの・・・

それは人の想いであるものだなと感じています。

素晴らしい番組ありがとうございました。

36 歳 女性

現代ならば“美しい物”とされている“星”も武器となり得ると知り、少し驚きです。多分どの国でもやっていたのかとも思われますが、難しい天文航法を扱うエリート(またその他の分野のエリート)の大多数の命を奪った戦争を、いや戦争をせざるを得なかった、状態をととても残念に思い、また、米国に頭に来てしまった作品です。日本の若者の純粋さに身が引き締まる思いもしました。

今時の子供達にもぜひ見て欲しいです。

感動しました

また別の題材で作って欲しいです。(シリーズ化)

34 歳 男性

・ 星が武器でなく、平和利用される事を登場人物も望んでいたが、私もそう思う。

・ 戦争の愚かさを訴えている。いい作品だった。

・ 今日で2日目だが、やっぱり新しい感動があった。

男性

戦場に輝くベガの企画、とてもいい企画でした。科学館ならではの番組でした。あらためて戦争の実相について考えさせられました。夜空に輝く星たちが、科学進歩や学問や人々の暮らしの中で、大切なものとして、けっして戦争のためでなく扱われることを強く望みます。科学館の学芸員のみなさまの企画力にあらためて感謝します。県民の一人としてこのような施設があることを誇りに思います。

49 歳 男性

アンケートより (6月10, 11日)

11 歳の女の子 非常に満足、「かんどうした」

9歳女の子 「やくそくをしたところ」(印象的な場面)

10歳男の子 非常に満足 「またみてみたい」

12歳男の子 非常に満足 「ベガを中心にひこうきをそうじゅうしていたこと」(印象的な場面)

7歳女の子 非常に満足



6月

見ました。星を使った戦争の仕事があったなんて知りませんでした。離れていてもひとつの星を見れるんだね。なんて、すごくロマンチックなことなのに、戦争という現実が重ねられるととても切なくて、学徒動員という「わだつみの声」を思い出してなんとも涙でした。戦争は勝っても負けてもいいことはない、星が武器ではなく人に希望を、などメッセージがとてもストレートに伝わってきて感動しました。当時の人たちの写真などもよくみつけたなと感心でした。でも最後にでてきた現代の人たちの写真は関係者かな？と想像するけれど少しわかりませんでした。

40代 女性

とても素晴らしい番組でした。取材や構成、音楽まで非常にいい作りで感動しました。作り手の熱意を感じる作品です。26歳男性

今さらながら、戦争とは何か？という事を考えさせられる重いけれど感動的な25分間でした。従来のプラネタリウムの印象を越える大変素晴らしい企画と思います。今後も、魅力的な企画を作って行かれる様に、頑張ってください。子供達には、少し難しい内容かもしれませんが、成長するに従い歴史を学んで行く中で、心のどこかに思い出される事と思います。人類の、子供達の未来が素晴らしいものでありますように！

54歳男性

戦場に輝く(ベガ)東京から雨の中、バイクで見に来ました。取材、プラネの機能をフルに使った演出どれをとっても(二重まる)見に来たかいがありました！

43歳女性

鷗友会への手紙

貴会誌上にて思いがけずもあの大戦中の動員学徒に関するお話、それも当時私も勤務していた海軍水路部のことを拝見して、ひたすら勝利を信じて計算作業に励んだあの頃の思い出がよみがえり、感無量でした。

皆さんのお力を借りて作ったのは、「高度方位暦」でありまして、それまでは機上で「天測略歴」「航空天測表」を使用して天体の高度と方位を計算しなければならなかったのを前もって計算して迅速化と間違いの防止を図ったものでした。昼夜24時間主要天体の高度方位の20分毎の数値を多数の航空基地など基準点毎に計算するので膨大な作業量になり、コンピューターなどない時代のことであのような人海戦術となったわけでした。私たちは極力計算方法の単純化を工夫し、その道具として使われたのが「航空天測表」とほとんど同じ内容で在庫のたくさんあった「簡易天測表」でした。

海軍がつぶれたショックで私は水路部をやめ、親たちの疎開先で浪人暮らしの中、公募に応じて勤めたのが新制中学の教師、校舎はなかったので、小学校に間借り授業、ここで教師を勤めていたのが結婚56年の妻(59回卒業、旧姓で藤平孝子)で、第一高女と水路部が結ぶ縁でした。懐かしさについて下手な文をつづりました失礼をお許しください。

K氏

母(S2生まれ)から聞いた体験談と重ねながら「戦場に輝くベガ」を見せていただきました。子ども達にわかりやすく説明するための台本であって、実際には敗戦をにおわせるような手紙の文は、検閲され、消されてしまったのではないかと思ったのですが、本当のところはどうだったのでしょうか。当時の天文技術の話、勤労奉仕の内容などはじめて知り興味深かったです。私たちの世代が太平洋戦争を身近に感じるのと同じように、親たち祖父母たちは、日清戦争、日露戦争を近くに感じていたのでしょうか。関係のないような昔に感じることでも、人の暮らしや命はつながっ

「戦場に輝くベガ～約束の星を見上げて」 感想ノート

ていて、そのつながりをきちんと後の世代につなげていかなければならないのだな、と思いました。思うままに書き、まとまっていません、見てよかったです。ありがとうございました。 41歳女性

昔もベガが武器としてでは、いつまでも輝いていることがよ～くわかりました。昔も今もベガが輝いているけど、未来でもすごく明るく光ってるといいなと思います。

9歳 女子

戦争中の人が星をたよりに動いているとは驚きでした。今の甲府では星があまり見えないのはとても残念でした。電気が多くで助かりますが、星が見えないのはつらいです。 13歳 女性

戦争中を思い出してほんとうに感動を新たににして涙があふれました。平和を祈らずにはられません。いつまでも、いつまでも――

82歳 女性 (久子)

あどけなさの残る少年兵の顔を見て、涙があふれ出ました。今の時代に生まれていたらなにをしていたのだろうか。好きなスポーツや勉強をしていたのだろうか。恋人と過ごしていたのだろうか。何の疑問もなく、教育させられ、命を奪われ、青春も未来もすべての人々に与えられるはずのものをもぎ取られた若い人たちが、戦争の世代がどんどん亡くなっていき、私たち知らない世代にはまだ十分に伝わっていない・・・そのことに大きな不安があります。ともすれば戦争ができるような今の日本、一人一人が過去の歴史にしっかりと目を向け、真実を知っていかなければ・・・と思います。子ども達をもう悲劇に会わせないために。

34歳 女性 K.めぐ

感動いたしました。当時は学生でしたので、大人になるにつれてこんなに多くの犠牲を払っての平和であることがどんなに大切か知らされていない恐ろしさを感じています。そして今もこれからも平和のよさを

多くの個々の方にも知ってもらおう大切さも感じています。ナレーション、キャストの方、スタッフ、歌、星空に乗ってぐいぐいひっぱってくださいました。ぜひ他の県でも上演して下さることを願っています。

ありがとうございました。 70歳 女性

最近、山梨県でさえも星明りがみえにくい。関心を持つ大人も少ない。だから子どもも興味を知らずに大人になる。さびしい世の中になってきていると感じます。こうしたイベントを小学生のうちに、心がきれいなうちに、いろいろなことを学べる環境が身近にある。ということは素敵なことですね。

きれいを「きれい」と感じ、言えるような大人に。おじい、おばあになろう。

そしたら皆、HAPPYじゃん。 21歳女性

星はいつもいつも変わらず、美しい。人は星を頼りに生きてきたと思う。海の上でも、陸から空から、いつも私たちに居場所を教えてくれた。向かう場所も、いつも指し示してくれた。安らぎも、希望も、星は与えてくれる。星は変わらず美しい。人は幾度繰り返せば、人が人をあやめることをやめるのだろうか。悲しみは天を仰ぐ。星に願いを。町から星は消され、人々はうしなっている大きなものにきづいているのだろうか。星は変わらず輝いているのに。地球も宇宙のどこかの星からみたら、輝く星のひとつなのだろうか。それならば、戦争はぜひやめてもらいたい。地球から眺める星星は私たちにとってとても美しい存在なのだから・・・。素敵で、感動しました。戦争を知る一面として、いろんな方に見ただけを願っています。ありがとうございました。 27歳 女性

「戦場に輝くベガ」、とってもよかったです。  
星が武器になってしまうような戦争をなぜ人間は今もつくりかえずなのでしょう。  
はじめから涙があふれて困りました。  
(視覚障害を持つ女性)

昨日はよいものをみせていただきまして感激しております。ありがとうございます。ちょうどこの間読み返していた飯島和一さんという方の歴史小説に、舵星(北斗七星)・後星(アルデバラン)・碇星(カシオペア)・三つ星(オリオン)などを目印にする船乗りの話がありまして、ちょっとした偶然にも喜んでおります。

軍事郵便とか海軍水路部とか、よく調べられていますね。なかなか目には見えないのかもしれませんが、確かな調査・取材が、30分弱の物語に“深み”を与えているような気がします。その深みこそが、観る人の想像力をかきたてるのではないのでしょうか？ 最後に出てきたのは取材された方たちでしょうか？ みなさんいい顔をされていて、取材者は素敵な仕事をしたんだな...と、少しうらやましく思われました。

もしかしたらおしつけがましいのかもしれないぬ反戦教育も、偏狭な世界観にしか裏打ちされていないナショナリズムも、軽々乗り越えてしまった美しい作品だと思っています。子どもたちには、折に触れ繰り返して観てほしい。それにしても、星空と反戦とを結んでしまうなんて、なんと酔狂(ほめ言葉ですよ)な！

-----

お正月を沖縄で過ごし、明け早々に映画「硫黄島からの手紙」を観た流れで、自分なりの「戦争体験」を引きずったまま、「戦場に輝くベガ」を観ました。観に行っただけでほんとうによかった。プラネタリウムそのものが「体感するメディア」であることも、改めて実感しつつ。「歴史」を自分ごととして引きつけてゆくきっかけとなる作品として、この番組が成功しているのは、作り手の対象

への潜入力そのものにあるのではないかと、製作過程を想像しました。エンドロールに並んだ名前に、気持ちのよい風が抜けている感じがしたのです。

歴史を、手応えのある実感として掴み取ることの難しさは、祖父母や両親の生のなかに今も生々しくあるだろう記憶と自分との断絶を思うだけで、容易に引き出されてきます。話しをすることがない。相手の心に響く言葉をやりとりすることに臆病になっている、どころか、そういう気配も見当たらないかもしれない。人によっては、自分の心に対しても同様なかもしれない。記憶が置き去りにされている、そのことの心の底に漂うやりきれなさや、閉じた孤独を思うことがよくあります。話すことができない、というところから、掬い取ることだってできるはずなのに。

プラネタリウムの“働き”として、わたしと宇宙を繋げること、というのが根底にあることはもちろんですが、「ベガ」は「あのとき・そこ」に若かった人たちの生と「今・ここ」にいる(真理子さんをはじめ)若い人たちの記憶に橋をかけたのかもしれない、と感じました。共にいる、という実感や共感、こういうものから育まれてくるのだらうと思います。